

## 安全・安心なまち「しろいし」のために

■ 山 田 裕 一\* ■

### 1. 白石市の概要

白石市は宮城県南部に位置し、戦国武将の独眼竜政宗こと伊達政宗の重臣、片倉小十郎が治めていた城下町です。初代白石城主、片倉小十郎景綱は智将として知られ、伊達政宗の側近中の側近として常に行動を共にし、合戦の場でも幾度となく政宗の窮地を救ったとされています。また、その息子である2代目片倉小十郎重長は「鬼の小十郎」と称され、大坂夏の陣での活躍が後世に語り継がれています。

その居城である白石城は、幕末には会津藩救済のため奥羽25藩の重臣が一堂に会した奥羽列藩同盟の舞台となるなど、たびたび歴史の表舞台に登場しています。その白石城も一度は明治維新後にすべて取り壊されてしまいましたが、平成7年に史実に忠実に復元され、市のシンボルとしてその美しい姿を誇っています。毎年10月には、その2



代目片倉小十郎重長の活躍をメインとした「鬼小十郎まつり」が白石城で開催され、全国から多くの観光客の皆さまにお越しいただいております。

市制の施行は昭和29年4月1日で、白石町ほか6村が合併して誕生し、その後、昭和32年3月にさらに1村と合併し現在の形となりました。平成29年

度は第5次白石市総合計画の7年目であり、総合計画に掲げた施策を通し、白石市を「住みたいまち」「住み続けたいまち」とし、「市民の笑顔あふれるまち白石」の実現を目指すとともに、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めるべく、市民総力を挙げて防災体制の強化に努めております。

### 2. 地形的特性

本市は、東西18.50km・南北19.75km、その面積は286.48km<sup>2</sup>を有し、市域は四季を通じて雄大な自然景観を有する国定公園蔵王連峰に抱かれ、土地利用状況の約70%を森林が占めています。標高は、市の中央を北東に流れる白石川（阿武隈川支流）下流の沿岸が海拔25mで最も低く、那須火山帯に属する蔵王連峰不忘山が1,705mで最も高くなっています。いわゆる落葉広葉樹林帯といえる中起伏以上の標高500m以上の面積は総面積の24%に達し、また、小起伏の地形といえる標高150~500mの面積は総面積の46%を占めています。



図-1 白石市位置図

\* Yuichi Yamada 宮城県白石市長

市内には、防災対策が必要となる土砂災害危険箇所が283箇所存在し、うち163箇所が危険区域に指定済（平成29年3月現在）となっております。

また、市内を流れる河川は、市街地の中央には、阿武隈川に合流する白石川が西から東に流れ、蔵王山麓に源を發する川原子沢川、天津沢川、兎捨川、平家川、大太郎川などが合流し、また、阿武隈山系より流れる塩川、谷津川、斎川、高田川などの河川が合流しています。

### 3. 平成27年9月 関東・東北豪雨による災害

#### (1) 気象状況について

平成27年9月に本州を襲った台風17号及び18号は、関東地方から東北地方にかけて、發達した積乱雲による線状の降水帯が長時間にわたり停滞したことから、後に「関東・東北豪雨」と呼ばれ、各地で土砂災害や河川の越水を引き起こすなど、甚大な被害を与えました。本市においても、9月6日の降り始めからの9月11日までの総雨量が332.5mmを觀測するとともに、一日の降水量が最大で142.0mm（9月10日）、一時間の最大雨量が37.0mm（9月10日20時30分～21時30分）を觀測するなど、記録的な豪雨となりました。

#### (2) 防災対応について

9月6日の降り始めから、しばらくは弱い雨が断続的に降り続けておりました。その後、次第に雨脚も強くなり、9日の3時45分、当市に大雨警報が發令されたことから、準備体制（0号配備）を敷き、防災担当部局職員が市役所に参集し、情報収集に努めるとともに、市民の皆さんには登録制メール「しろいし安心メール」で警報發令をお知らせいたしました。その後も雨脚は強弱を繰り返しておりましたが、翌10日になると再び強く降り始め、13時17分に土砂災害警戒情報が、また14時44分には洪水警報も發表されたことから、15時に警戒準備体制（1号配備）に体制を移行しました。引き続き情報の収集を行うとともに、消防団や自主防災組織とも協力し、市内のパトロールや

危険箇所の点検を実施しました。また、今後の気象予報から、更なる状況の悪化に伴い、避難情報發令の可能性が高まることを想定し、初動期に開設する11の指定避難所に職員を派遣し、避難所開設に備えました。

その後も雨の勢いは衰えず、21時を過ぎた頃には非常に激しい雨が続いたことから、22時10分に市内の上久保地区、郡山地区、福岡八宮地区、福岡長袋沖地区の4地区1,399世帯、1,744人を対象に避難準備情報を發令し、同時に市内全域の初動期開設11の指定避難所を開設いたしました。事前に職員を派遣していたことから、既に自主避難していた方も含めてスムーズに避難者を受け入れることができました。市内の被害報告は、深夜ということもあり、限られたものではありませんでしたが、市内各所で道路の冠水や建物の床下浸水、法面崩落による市道の通行止めの情報が続々と届けられました。

11日に入り、雨の勢いも次第に小康状態となったことから、明朝からの被害調査の方法や現時点での被害箇所の集約を行っていたところ、3時20分に宮城県で初めてとなる大雨特別警報が發表されました。そのため、4時20分に災害対策本部（3号配備）に移行し、改めて被害状況のとりまとめを行いました。

明け方には雨も止み、9時28分に土砂災害警戒情報が解除となったことから、10時40分に警戒体制（2号配備）に移行し、また13時30分に宮城県に出されていた大雨特別警報・洪水警報が解除とな



写真-1 福岡深谷地内の河川増水による越流



写真－２ 福岡深谷地区市道鳥越線の道路冠水

り、災害体制も警戒準備体制（１号配備）に移行するとともに、市内４地区に発令していた避難準備情報も解除いたしました。併せて、11箇所の初動期開設指定避難所も全て閉鎖といたしました。夜間の避難準備情報発令にも関わらず、9つの指定避難所に延べ24世帯50人の方が一時的に避難をいたしました。

### (3) 災害状況について

この豪雨により、人的被害は確認されておりま



写真－３ 越河平地区の地すべり



写真－４ 越河平地区の地すべりによる全壊家屋

せんが、住家被害として全壊１件、一部損壊２件、床上浸水１件、床下浸水13件、河川・道路・用排水路被災203件、市道全面通行止め８箇所、土砂災害39件発生するなど、大きな被害がもたらされました。中でも、越河平地内で発生した地滑りでは、幅40m、延長55mに渡って自然斜面が崩落し、住宅１件が全壊となる被害を引き起こすとともに、その土砂が流出し、すぐ近くを通っている東北自

動車道に影響を与える可能性が発生したことから、宮城県及び東日本高速道路株式会社に通報し、現地調査を依頼しました。

#### (4) 復旧対応について

被害状況の調査と並行して復旧作業を行いました。災害復旧工事の基礎とすべく、被災箇所の調査測量業務を開始するとともに、市内の土木業者に協力を要請し、用排水路の土砂除去や閉塞箇所の解消と通行止めとなった市道の応急復旧作業の実施、生活再建のため住家被害者への罹災証明書が発行業務を速やかに実施いたしました。

また、大きな被害を受けた越河平地内においては、高速道路への土砂流出の危険性は低くなったものの、近隣住宅に土砂流出の危険もあることから、宮城県と対応を協議し、2次災害防止のために土砂流動による危険を知らせる監視装置を設置していただくとともに、市でも大型土嚢を設置する等の応急対策をいたしました。その後、本格的な災害復旧工事を、国土交通省の災害関連緊急事業として、流出土砂の排土工、横ボーリング工による地下水排除対策、表面水排除のための水路工等を実施していただき、平成28年度に終了いたしました。

### 4. これからの災害対応に向けて

平成26年9月に「風水害における避難勧告等の判断・伝達マニュアル」を策定しておりましたが、いざというときはやはり経験がものを言うと感じました。当市では豪雨災害に対する経験が浅く、災害体制の配備に多少の時間を要してしまいました。また、これほどの規模としては災害に従事する職員の数も十分ではありませんでした。この時の経験を踏まえ、当時は防災担当部署として民生部局内の一つの係であったものを、平成28年4月、総務部危機対策室と独立した部署として昇格させ、本年平成29年4月からは総務部危機管理課として課に昇格させるなど防災体制の強化を図りました。

また、災害時の情報収集方法及び住民に対する情報伝達の難しさを改めて実感いたしました。市内の広範囲で災害が発生したことから、被災状況の情報収集には大変苦慮し、特に市内中心部以外からの情報が掴みづらいという問題がありました。消防団や自主防災組織からの情報を頼りに被災状況の把握に努めましたが、夜間であったことから被災状況の収集に時間を要してしまいました。その教訓から、情報収集の手段・連絡系統を再確認するとともに、住民に対し、避難情報も含めた防災情報を迅速かつ的確に伝達する手段の強化を図るため、登録制メールの周知と登録の推進を呼びかけています。

当市では、日頃から総合防災訓練において、市内全地区及び全ての指定避難所において、集会所等への「一時避難訓練」と指定避難所における「避難所開設・運営訓練」を実施しておりましたことから、夜間の準備情報発令にも関わらず、大きな混乱もなく避難所の開設を行うことができました。改めて、常日頃からの訓練の重要性を認識することができました。

最後になりましたが、住民の安全・安心のための防災対策は今後も継続して実施すべきことと認識しております。災害時にご尽力いただきました関係機関の皆さま、地域で防災活動を実施いただきました消防団や自主防災組織の皆さまに感謝申し上げますとともに、これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。



写真-5 白石城で行われる鬼小十郎まつり